

専門分野Ⅱ：小児看護学

〈概要〉

小児看護学は、小児の成長・発達と健康増進および疾病や障害を持つ小児と家族への看護を学ぶ学問です。

近年の小児と家族を取り巻く環境は、少子化・核家族化・価値観の多様化・女性の社会進出などに伴い急激に変化してきています。また、小児の健康問題は生活習慣病の増加・こころの問題・育児不安に絡む児童虐待など複雑化しています。

医療技術の進歩は多くの小児の命を救う一方で、病院に入院している小児の健康障害は重症化している傾向にあります。こうした状況の中、あらゆる健康レベルにある小児が健やかに成長・発達することができるよう、小児各期の発達段階の特徴を踏まえてそれぞれの健康レベルに応じた看護について学習します。

小児看護学は小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習の5つの科目から構成されています。

小児看護学概論（1単位30時間）では、小児と家族を取り巻く環境・医療・看護の変遷と小児各期の成長・発達の特徴および健康増進のための看護について学習します。

小児看護学Ⅰ（1単位15時間）では、染色体異常・胎内環境により発症する先天異常やハイリスク新生児の病態と治療、小児期における主な疾病や障害についての病態と治療について身体系統別に学習します。

小児看護学Ⅱ（1単位30時間）では、疾病や障害が小児と家族に与える影響を理解し、疾病の経過や状況に応じた看護について学びます。また、さまざまな症状を示す小児、検査や処置を受ける小児と家族への看護を学習します。

小児看護学Ⅲ（1単位30時間）では、小児期における主な疾病や障害を持つ小児と家族への看護について学習します。事例を通して小児の発達段階の特徴をふまえながら、疾病や障害の特徴とその経過や状況に応じた看護を学習します。

小児看護学実習（2単位90時間）は、保育施設と病院で実習します。保育施設での実習は、小児の成長・発達と健康増進のための看護について学習します。病院実習では、疾病や障害を持ちながら生活する小児と家族への看護について学習します。

〈単位〉 6単位 195時間

〈目的〉

小児の成長・発達と健康増進のための看護、および疾病や障害を持つ小児と家族への看護を実践するための基礎的能力を養う。

〈目標〉

1. 小児の成長・発達と小児各期における発達段階の特徴を理解する。
2. 小児の成長・発達と健康増進のための看護を理解する。
3. 小児期における主な疾病や障害の特徴とその看護を理解する。
4. 疾病や障害が小児と家族に与える影響を理解し、その経過や状況に応じた看護を理解する。
5. 小児の健やかな成長・発達を支えるための社会資源の活用と看護の役割を理解する。

〈小児看護学の科目構成と単位時間数等〉

科目	単位	時間	年次	時期	学習内容
小児看護学概論	1	30	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の特徴と理念 ・小児と家族を取り巻く社会 ・小児看護における理論 ・小児の成長・発達 ・小児の栄養 ・小児各期の特徴と健康増進のための看護 ・家族の特徴とアセスメント ・小児の虐待と看護
小児看護学Ⅰ	1	15	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療 ・ハイリスク新生児の病態と治療 ・小児期における主な疾患の病態と治療
小児看護学Ⅱ	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害を持つ小児と家族の看護 ・小児の状況に特徴づけられる看護 ・小児における疾病の経過と看護 ・障害のある小児の看護 ・小児のアセスメント ・症状を示す小児の看護 ・検査・処置を受ける小児の看護 ・小児看護技術
小児看護学Ⅲ	1	30	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・低出生体重児・健康課題のある小児と家族の看護 ・感染症を持つ小児と家族の看護 ・アレルギーを持つ小児と家族の看護 ・呼吸・循環機能を障害された小児と家族の看護 ・食事制限のある小児と家族の看護 ・医療的ケアを必要とする小児と家族の看護 ・血液・造血器機能を障害された小児と家族の看護 ・活動制限のある子どもと家族の看護 ・心身障害のある小児と家族の看護 ・災害時における小児と家族の看護 ・在宅医療を受ける小児と家族の看護 ・事例展開
小児看護学実習	2	90	3		<ul style="list-style-type: none"> ・小児の成長・発達と健康増進のための看護 ・健康障害を持つ小児と家族への看護
合計	6	195			

専門分野Ⅱ：小児看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学概論	専任教員	1年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 小児と家族を取り巻く環境・医療・看護を理解する。 2. 小児の成長・発達を理解する。 3. 小児の栄養を理解する。 4. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。 5. 小児にとっての家族の機能と役割を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学[1] 2) 小児看護学概論小児臨床看護総論，医学書院。		1) 二宮啓子：小児看護学概論子どもと家族に寄り添う援助，南江堂。 2) 中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護，メデिका出版。	
評価方法			
受講状況，レポート，筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
4	小児看護の特徴と理念	1. 小児看護の目的と役割 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児医療・小児看護の変遷 4. 小児看護の課題 5. 小児看護における倫理	講義
4	小児と家族を取り巻く社会	1. 小児を取り巻く環境※ 2. 児童福祉と子育て支援・虐待防止 3. 母子保健 4. 医療費の支給 5. 予防接種 6. 学校保健	※演習
2	小児看護における理論	1. ボウルビイの愛着理論 2. ピアジェの認知発達理論 3. エリクソンの自我発達理論	
2	小児の成長・発達	1. 成長・発達の概念と進み方 2. 成長・発達に影響する因子 3. 成長・発達の評価	
2	小児の栄養	1. 小児にとっての栄養の意義 2. 食事摂取基準 3. 発達段階別の小児の栄養の特徴と看護 4. 栄養教育(食育)	
10	小児各期の特徴と健康増進のための看護	1. 新生児の特徴と健康増進のための看護 2. 乳児の特徴と健康増進のための看護 3. 幼児の特徴と健康増進のための看護 4. 学童の特徴と健康増進のための看護 5. 思春期の小児の特徴と健康増進のための看護	
2	家族の特徴とアセスメント	1. 小児にとっての家族 2. 家族アセスメント※	※演習
2	小児の虐待と看護	1. 児童虐待の現状と対策の経緯 2. 児童虐待の特徴と看護	
2	試験		

専門分野Ⅱ：小児看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学Ⅰ	医師	2年次前期	1単位／15時間
科目目標			
1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療を理解する。 2. ハイリスク新生児の病態と治療を理解する。 3. 小児期における主な疾病や障害の病態と治療を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院。		1) 鴨下重彦：こどもの病気の地図帳，講談社。 2) 石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程，医学書院	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
2	先天異常・ハイリスク新生児の病態と治療	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 常染色体異常 2) 性染色体異常 2. ハイリスク新生児 1) 未熟児・低出生体重児 2) 新生児仮死 3) 呼吸窮迫症候群	講義
12	小児期特有の疾患と治療	1. 代謝性疾患，内分泌疾患 1) 新生児マススクリーニング 2) 糖尿病 3) 中枢性尿崩症 4) 成長ホルモン分泌不全性低身長症 5) 甲状腺機能亢進症 6) クレチン症 2. 免疫・アレルギー性・リウマチ性疾患，感染症 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 3) 若年性特発性関節炎 (JIA) 4) ウイルス感染症 5) 細菌感染症 3. 呼吸器疾患，循環器疾患 1) 肺炎 2) 先天性心疾患 3) 川崎病 4. 腎泌尿器疾患 1) ネフローゼ症候群 2) 溶血性レンサ球菌感染後急性糸球体腎炎 5. 消化器疾患 1) 口唇裂・口蓋裂 2) 食道閉鎖症 3) 肥厚性幽門狭窄症 4) 鎖肛 5) 胆道閉鎖症 6) 腸重積 7) ヒルシュスプリング病 8) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎 (ロタウイルス・ノロウイルス) 6. 血液・造血器疾患，悪性新生物 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 血友病 3) 白血病 4) 神経芽腫 7. 神経疾患 1) けいれん・てんかん 2) 脳性麻痺 3) 水頭症 4) 二分脊椎 5) 筋ジストロフィー症 8. 運動器疾患 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 特発性脊柱側彎症 5) 骨折 9. 皮膚疾患，眼疾患，耳鼻咽喉疾患 1) 母斑 2) アトピー性皮膚炎 3) 斜視 4) 中耳炎 5) 扁桃肥大 10. 精神疾患 1) 発達障害 2) 行動上の障害	
1	試験		

専門分野Ⅱ：小児看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学Ⅱ	専任教員	2年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 病気や障害が小児と家族に与える影響と看護を理解する。 2. さまざまな状況にある小児と家族の看護を理解する。 3. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護を理解する。 4. 小児のアセスメントに必要な技術を理解する。 5. さまざまな症状を示す小児の看護を理解する。 6. 検査・処置を受ける小児の看護を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論小児臨床看護総論，医学書院。 2) 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院。 3) 山元恵子：写真でわかる小児看護技術改訂第3版，インターメディアカ。		1) 小野田千枝子：こどものフィジカルアセスメント 金原出版。	
評価方法			
受講状況，レポート，筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
2	病気・障害を持つ小児と家族の看護	1. 病気・障害が家族に与える影響 2. 小児の健康問題と看護	講義
4	小児の状況に特徴づけられる看護	1. 入院中の小児と家族の看護 2. 外来における小児と家族の看護 3. 在宅療養中の小児と家族の看護 4. 災害時の小児と家族の看護	
4	小児における疾病の経過と看護	1. 慢性期にある小児と家族の看護 2. 急性期にある小児と家族の看護 3. 周手術期にある小児と家族の看護 4. 終末期にある小児と家族の看護	
2	障害のある小児と家族の看護	1. 障害のとらえ方 2. 障害のある小児と家族の特徴 3. 障害のある小児と家族の社会的支援	
4	小児のアセスメント	1. コミュニケーション 2. バイタルサイン 3. 身体計測 4. 身体的アセスメント	
4	症状を示す小児の看護	1. 不きげん 2. 啼泣 3. 痛み 4. 呼吸困難 5. チアノーゼ 6. ショック 7. 発熱 8. 嘔吐 9. 下痢 10. 便秘 11. 脱水 12. 浮腫 13. 出血 14. 貧血 15. 痙攣 16. 意識障害 17. 発疹 18. 黄疽	

4	検査・処置を受ける小児の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬(経口与薬, 点耳, 坐薬, 注射) 2. 輸液管理(末梢静脈内持続点滴, 経中心静脈持続点滴) 3. 抑制(おくるみ, 抑制ベスト, 肘関節抑制帯) 4. 検体採取(採尿, 採血, 骨髄穿刺・腰椎穿刺) 5. 排泄援助(おむつ交換, 綿棒刺激) 6. 酸素療法(酸素ボックス, 酸素テント) 7. 一次救命処置 8. 気道内異物除去 	講義
4	小児看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定 2. 採尿 3. 一次救命処置 4. 輸液管理(輸液ポンプ・シリンジポンプの基本的操作) 	デモンストレーション 校内実習
2	試験		

専門分野Ⅱ：小児看護学

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学Ⅲ		専任教員・看護師	2年次後期	1単位／30時間
目的・目標				
1. 健康障害のある小児の看護を発達段階別・経過別・治療別に学ぶ。 2. 小児の健康上の問題を解決するための思考過程を明確に出来る。				
教科書			参考文献	
1) 間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学[1] 小児臨床看護各論, 医学書院.			1) 五十嵐 隆：小児看護ケアマニュアル, 中山書店 2) 鴨下重彦：こどもの病気の地図帳, 講談社. 3) 石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程, 医学書院	
評価方法				
受講状況, レポート, 筆記試験				
授業計画				
時間	単 元	授業内容等		授業方法
6	1. 低出生体重児・健康課題のある小児と家族の看護	1) 染色体異常・体内環により発症する先天異常の患児と家族と看護 2) 疾患を持つ新生児と家族の看護		講義
4	2. 感染症を持つ小児と家族の看護 3. アレルギーを持つ小児と家族の看護	1) ウィルス感染症、アレルギー性疾患を持つ患児と家族の看護		講義
2	4. 呼吸・循環機能を障害された小児と家族の看護	1) 呼吸器系、循環器系に障害のある患児と家族の看護		
4	5. 食事制限のある小児と家族の看護 6. 医療的ケアを必要とする小児と家族の看護	1) 腎・泌尿器系、消化器系、内分泌・代謝系に障害のある患児と家族の看護		
2	7. 血液・造血器機能を障害された小児と家族の看護	1) 血液・造血器系に障害のある患児と家族の看護		
2	8. 活動制限のある子どもと家族の看護 10. 心身障害のある小児と家族の看護	1) 筋・骨格器系に障害のある患児と家族の看護 2) 発達に障害のある患児と家族の看護 3) 重症心身障害のある患児と家族の看護		
2	11. 災害時における小児と家族の看護 12. 在宅医療を受ける小児と家族の看護	1) 災害における小児への影響とストレス 2) 災害時の小児と家族への援助 3) 在宅医療を受ける小児と家族の看護		
6	13. 事例展開	1) 事例を用いて看護の実際を考える		演習
2	試験			

専門分野Ⅱ：小児看護学実習

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学実習	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
1. 専門分野Ⅰを修了していること。 2. 小児看護学概論，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学Ⅲを修了していること。 3. 心身ともに健康な状態であることが基本となるので，定期健康診断を受けていること，心身に問題がある人はその治療を受け，自己管理ができていなければならない。 4. 1年次の健康診断で，麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価が基準値を下回っていた場合は，アレルギーなどの禁忌がない限り，計画的に予防接種を行い，2年次までに抗体を獲得しておかなければならない。			
科目目標			
目的：小児の成長・発達を理解し，健康障害のある小児と家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。 目標： 1. 小児の成長・発達，健康増進のための看護を理解する。 2. 健康障害のある小児と家族への看護を理解する 3. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度を養う。			
実習施設		評価方法	
1) 東金沢こども園・千坂こども園・小金こども園のうちいずれか1施設 2) 浅ノ川保育所，はあと保育園 3) 金沢医科大学病院(小児病棟，NICU・GCU，小児科外来)		事前学習，出席状況，実習内容，実習態度，実習記録	
授業計画			
1. 各実習施設における実習時間および実習期間 1) 保育園・認定こども園：7.0時間 ×4日間 2) 保育所：7.5時間×2日間 3) 病院実習：7.5時間×5日間 4) 学内(全体オリエンテーション，演習)：9.5時間 2. 実習方法 1) 保育施設での実習は，保育教諭・保育士・職員の指導・助言のもとで実習する。 2) 病院での実習は，看護師の指導・助言のもとで実習する。 3) カンファレンスは，保育施設の実習では保育園・認定こども園での実習最終日に行う(保育所の実習では原則行わない)。病院の実習では病棟実習3日目，NICU・GCU実習日，外来実習日に行う。 ※詳細は実習要項参照			